

旧香藝の郷の利活用方法に関する
意見集約及び方向性に関する調査・研究報告書
(概要版)

平成 31 年 3 月

株式会社近畿日本ツーリスト関東

新潟支店

目次

1. はじめに	2
2. 一般市民の参加によるワークショップの結果.....	2
3. 関係団体からのアンケート及びヒアリング結果（内部からの意見・視点）	3
(1) 本施設の潜在能力の評価.....	3
(2) 瀬波温泉の観光魅力度の評価.....	3
(3) 村上市全域の、観光魅力度の評価.....	3
(4) 本施設に期待することや、本施設でやってみたいこと	4
(5) 利活用していくにあたり、改善した方がよいと思うこと	4
(6) 村上市内全域の観光資源と本施設が連携する場合の利活用方法の案.....	4
(7) 本施設、瀬波温泉、村上市全域が将来どのような姿であってほしいか....	4
(8) 利活用時の留意点.....	5
4. 旅行者及び宿泊者からのアンケート結果（外部からの意見・視点）	6
(1) 観光ツアーのPR/観光ツアーを選択するときに重視する媒体.....	6
(2) 観光ツアー先を選択・企画提案するときに重視すること	6
(3) 村上市の観光資源を生かしたツアー案のうち、ニーズがありそうなもの..	7
(4) 村上市の観光資源を組み合わせたツアーの造成に関する改善案.....	7
(5) 居住地.....	8
(6) 瀬波温泉宿泊や村上市内観光で楽しみにしていること	9
(7) 今回の瀬波温泉宿泊や村上市内滞在中の予定.....	10
(8) 次の訪問時に体験したい/出会いたいこと.....	11
5. 香藝の郷の利活用に関する方向性に関して.....	12
(1) 本件調査によるあるべき姿.....	13
(2) 整備手法に関する提案.....	13

1. はじめに

本調査は、旧香藝の郷の改修を含んだ利活用を図るにあたり、観光客の動向や地域の声を勘案しながら、最も適していると考えられる方法を導き出し、新たな誘客施設の整備により、観光客の増加につながる利活用方策の検討を目的としている。

意見集約及び方向性の策定にあたり、広く多方面からの意見を集約するために、内部・外部からの意見・視点を内包した利活用方策となるよう調査を実施した。

調査にあたっては、主に以下5点の業務を実施した。

- 1) 一般市民の参加によるワークショップの開催
- 2) 関係団体からのアンケート及びヒアリング
- 3) 宿泊者及び旅行者からのアンケート調査
- 4) 成功事例調査
- 5) 利活用案の提案

概要版では、4) 以外の結果を報告書に取りまとめた。

2. 一般市民の参加によるワークショップの結果

利活用方法を考える前提として、村上市の環境は現在どのようになっているのかをワークショップ参加者が意見を出し合い確認した。

[ワークショップ実施によって明らかになった、現在の村上市の環境について]

	【プラス要因】	【マイナス要因】
内部環境	強み	弱み
	○三面川、日本海(笹川流れ)、朝日連峰等、 <u>豊かな自然</u> が大きな強み。 ○ <u>鮭、お茶、米、酒等の食</u> に関しては他に引けを取らない大きな強み。	○ <u>2次交通がない</u> 、駅前通りや駅周辺が寂しい、地理的条件が悪い ○外部から <u>誘客できる施設が少ない</u> 等の意見が多かった。
外部環境	機会	脅威
	○ <u>インバウンドの観光客の増加</u> ○小和田家に関すること	○少子高齢化が進んでいる現状で市が <u>中長期的に元気を失っていく</u> こと ○ <u>近隣市町村との観光における競争が激化</u> していること

これらの内部・外部環境分析の結果を踏まえて、参加者が考える旧香藝の郷の利用方法については、以下のような意見が出された。

<域内の住民向けの利活用案>	<観光客や訪問客向けの利活用案>
展示・発表・協働の場として利用するという意見が多かった。	域内の情報を収集できる場所として利用するという意見が多かった。

○美術・工芸・写真・書道等展示会を実行する場所として利用	○道の駅や食の機能を備えた村上市のゲートウェイとしての複合施設
○ワークショップや体験の場等の発表の場を通して市民交流の場として利用	○村上の観光情報の収集の場
○伝統文化伝承の場。若い人が地域の歴史・文化を学べる場所として利用	○村上の観光・歴史・文化の研究機関
	○外国人の観光拠点

3. 関係団体からのアンケート及びヒアリング結果（内部からの意見・視点）

内部からの意見・視点を得るため、関係団体からのアンケート及びヒアリング調査を実施した。以下、調査項目と主な回答内容である。

（1）本施設の潜在能力の評価

本施設の潜在能力が高いとする評価	瀬波温泉の中心にあり、建物が大きく、集客能力があるので利用価値が高い
本施設の潜在能力が低いとする評価	利用目的がはっきりせず、現在は利用されていないので暗く不気味であること 本施設が完成した時から地域住民への情報共有や交流がなかったため、現在までの周知が不足していること

（2）瀬波温泉の観光魅力度の評価

瀬波温泉の観光魅力度が高いとする評価	村上市内各所の観光資源や観光地との相乗効果が見込める
瀬波温泉の観光魅力度が低いとする評価	お客様をお迎えするためのソフト部分（人の教育やお客様の声を観光サービスに生かすなどの部分）が村上市も含め圧倒的に配慮が足りない お客様を感動させ、再訪していただくようなソフト面での観光受入の体制が不十分だと思う

（3）村上市全域の観光魅力度の評価

村上市全域の観光魅力度が高いとする評価	村上市内各所の観光資源や観光地との連携の拠点にすることで、この施設がまち歩き目的地（出発地）になる可能性があるから上市内各所の観光資源や観光地との相乗効果が見込める 平日でも旧市街を散策する観光客が増えているから
瀬波温泉の観光魅力度が低いとする評価	村上市民全体として、観光に関してよくわからない人が多い（関わっている人が少ない）から

なお評価の高低に関わらず、
 ○運営方法次第だと思ふし、活用の仕方によってかなり活かされると思う
 ○利用目的が明確になれば、瀬波温泉や村上市全域の活性化に貢献する
 という意見が出された。

(4) 本施設に期待することや、本施設でやってみたいこと

ア. 域内の住民と域外の観光客や訪問客との交流の場	全天候対応型の交流/おもてなし施設として、市民や観光客が数時間～半日程度遊べたり、体験したり、見学したりできる、体験プログラムの発着点。 瀬波温泉や市内資源の喫茶交流型図書館（ライブラリーカフェ）としての場
イ. 域内の住民向け	日中は子どもや親で遊べたり利用でき（例：イクネスしばたこどもセンター）、夕方からは大人の人たちが生涯学習やカルチャークラブのために集まる場所。 温泉で働く女性を確保するための子育て支援施設としての活用。
ウ. 域外の観光客や訪問客向け	足湯/喫茶がある健康維持・向上活動施設（ウォーキングコース発着点も）。

(5) 利活用していくにあたり、改善した方がよいと思うこと

見学よりも「遊び」や「体験」を中心とする施設にすること。
室内の導線を明確にしてわかりやすくすること。
既存の考え方や価値観以外から運営方法を検討すること（幅広い情報収集）。
利用者ターゲットを明確にし価格設定すること（若者・家族・観光客・市民）。

(6) 村上市内全域の観光資源と本施設が連携する場合の利活用方法の案

観光客と一般市民が集う体験、交流、憩いの場。
単に土産店や飲食店を寄せ集めるのではなく、総合的なまちづくり/連携の拠点。

(7) 本施設、瀬波温泉、村上市全域が将来どのような姿であってほしいか

村上市全体を代表する、県内外の人が集まる、明るいにぎやかな場所。
交流・滞在型観光・体験型観光がさかんな、何度も訪れたい場所。
市全域としての共通コンセプトや来訪者ターゲットが浸透している場所。
本施設は瀬波温泉や村上市内の観光の活性化のためだけに活用されるのではなく、市民生活や市内団体の活動にも役立つ、域外と域内の総合的な連携交流拠点になっていくべきだ。
本施設が有効活用され、瀬波温泉が活性化し、村上市が活性化し、その結果として市民も喜べ

るような姿になってほしい。
鮭、お茶、堆朱、町屋等や小和田家・皇后陛下のゆかりの地としての歴史文化が薫る落ち着きと、マリンスポーツなどの活発さを併せ持つ場所。

(8) 利活用時の留意点

域外・域内への情報発信/P R方法について	団体バス旅行のお客様が必ず来るような、観光雑誌に掲載されるスポット的な存在であるような(ハードよりソフト面の)整備とPRを行うこと。
	観光資源(コンテンツ)をつなぐ観光ルートを確立すること。
	村上市の中心部と瀬波温泉をリンクさせた運営とPRを行うこと。
	村上市は屋外の観光資源があるので、本施設が屋内の観光資源の中心的存在になるようにしていくこと。
利活用内容の検討・推進・利活用開始後の改善方法について	温泉街や市役所の関係者だけではなく、「村上市民」や「県外の観光客」に周知すること。
	村上市民や関係者の理解と協力体制を改善すること。(一部の関係者だけが利活用の内容を検討して推進するのではなく、さまざまな意見を広く取り入れ、村上市の域内全体で本施設を利活用できる体制や仕組みを構築することが必要である。)
	行政主導型は成功しないので、従来のハコモノ利用ではなく、その”ハコ”を使って何をするか、何によって集客を図るかを市民も含めてしっかり検討すること。
施設内外の整備イメージについて	自分たちが当たり前になっていることが観光資源につながるということを伝え、プレストのタウンミーティング(参加者が自由にアイデアを次々出していく形式の集会)を多く行うこと。
	少しお金を払ってでも観光客が満足できる施設にすること。
施設の日常メンテナンスや運営方法について	街灯や横断歩道を設置すること。
	施設の掃除などのメンテナンス方法を瀬波温泉の公衆トイレ方式(EM菌の活用)に改善し、日本一であることを発信・周知していくこと。
将来の利活用イメージについて	接客するときには、村上の言葉で行うのがよい。(標準語では雰囲気出不い)
	旅館から人が閉じこもらないように、ゲタで歩く音を響かせること。(瀬波温泉を訪れた域外からの旅行者が気軽に立ち寄れる、風情やにぎわいが生まれる利活用を目指してほしい)
	本施設をしっかりと活用して、来客数を増やし、温泉街の活性化によって村上市が活性化しつつ、市民にも貢献できるようにすること。
	多数の市民(赤ちゃんから高齢者まで)が気軽に利用できるようにする

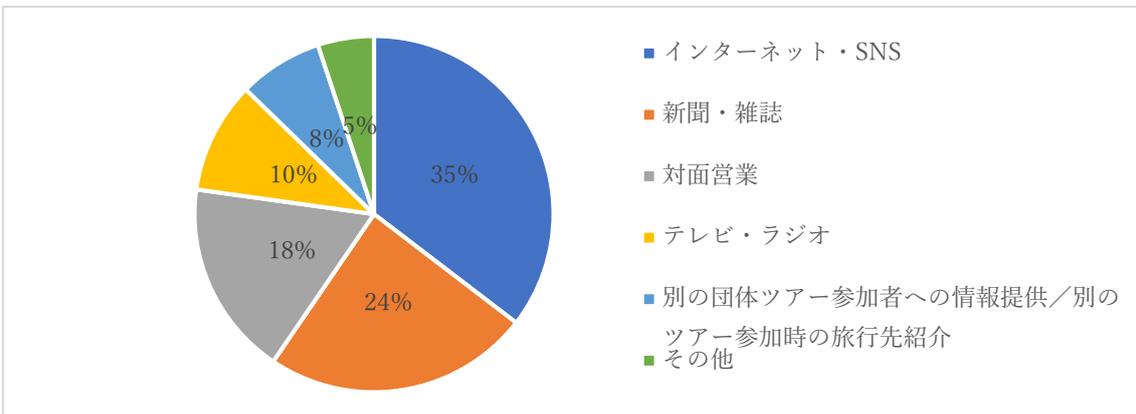
	こと。
	単なるハコモノにせず、村上市民も積極的に使いたくなるような運営内容にすること。(にぎわいがあれば観光客にとっても楽しい)

4. 旅行者及び宿泊者からのアンケート結果 (外部からの意見・視点)

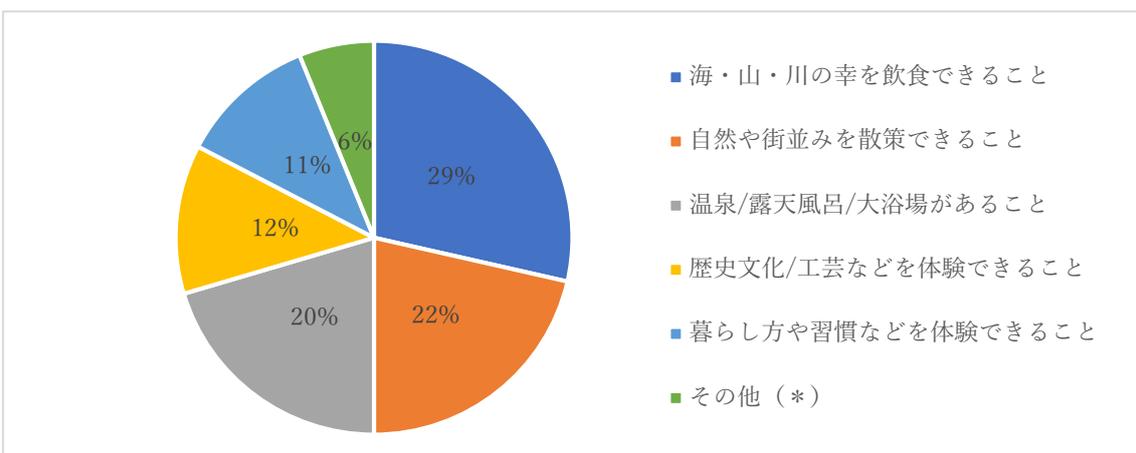
外部からの意見・視点を得るため、宿泊者及び旅行者に対して、村上市での新しい観光ツアー案の造成を目的としたアンケート調査を実施した。以下、主な調査項目と回答内容である

[旅行者]

(1) 観光ツアーのPR/観光ツアーを選択するときに重視する媒体



(2) 観光ツアー先を選択・企画提案するときに重視すること



(*)その他の場合の重視するポイント

- 発売時期、タイミング
- (他の地域に比べ) 食文化の特徴などがわかりやすいこと (塩引き鮭など)

- 伝統芸能、エンターテインメント性
- フリータイム（やツアー先での選択肢）があること

（３） 村上市の観光資源を生かしたツアー案のうち、ニーズがありそうなもの

- ①日本海の絶景と恵みを存分に。瀬波温泉露天風呂と村上の美食満喫ツアー
- ②江戸の文化が薫る街。村上市内まちなみ散策体験ツアー（瀬波温泉内施設発着）
- ③岩船港夕せり（夕方開催の魚せり市）体感ツアー（瀬波温泉内施設発着）
- ④伝統芸能/工芸/運動体験を通じた地元住民との交流ツアー（瀬波温泉内施設）

（アンケートでは上記４案を提示した。概要版では１位のみ結果を示す）

<1位>

日本海の絶景と恵みを存分に。瀬波温泉露天風呂と村上の美食満喫ツアー

[選択理由]

○地域特性

瀬波温泉・夕日・鮭などの地域資源

○立地特性

海なし県にとっては、日本海というものに魅力を感じる

○観光客全体の食のニーズ

食事・海鮮と海の景色（夕日）はお客様ニーズが多い

○ターゲット層別のニーズ

特に女性の趣向に合っていて、年齢問わず楽しめると思う

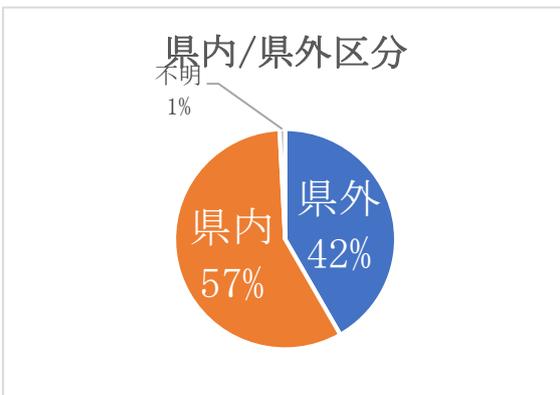
（４） 村上市の観光資源を組み合わせたツアーの造成に関する改善案

PR方法について	村上ならではの強いコンテンツがあればなお良い （美食と歴史が堪能できるだけでなく、他の特徴がほしい）
	良い観光素材が多いですがインパクトに欠けている印象。村上市内の観光スポットとの繋がりや四季感をもっとPR
	年配の方向けのツアー内容だと感じたので、「日本海の夕日がインスタ映えする」や、まちなみ散策におしゃれカフェがある等、若い人が興味を持ちそうなPRがあると良いと思います
	年齢層によって勧める点が変わっていくかと思う（ターゲット別にPRポイントを絞って内容を充実される必要あり）
	海がない国の方にSNSやメディアでPRする
他の温泉・歴史的観光地との差別化について	春夏秋冬、四季折々の楽しみ方を示す必要がある 他の温泉・歴史的観光地と似ているため、ターゲット別の差別化が必要
市内や瀬波温泉での	地元の住民の方などのガイドの案内があるとツアーが一層魅力的

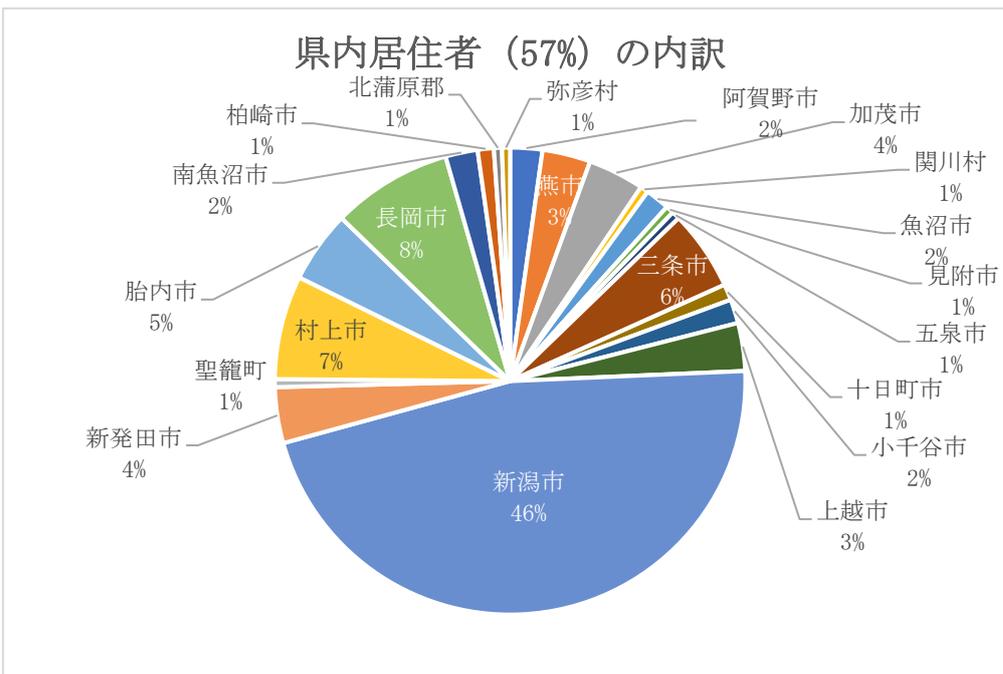
観光ツアーの内容や 仕組みについて	になる
	冬に散策したことがあります。寒いのに喫茶店などがあまりないので、観光客や地元の方が集える場所があると、観光ツアーの満足度が向上する
交通アクセスや他の 近隣観光地域との連 携・協働について	村上市内外の観光拠点との連携があるとよい
	東京からのお客様のアクセスの確保、新潟駅からの観光&送迎 交通アクセス（現地での移動方法・2次交通の充実）

[宿泊者]

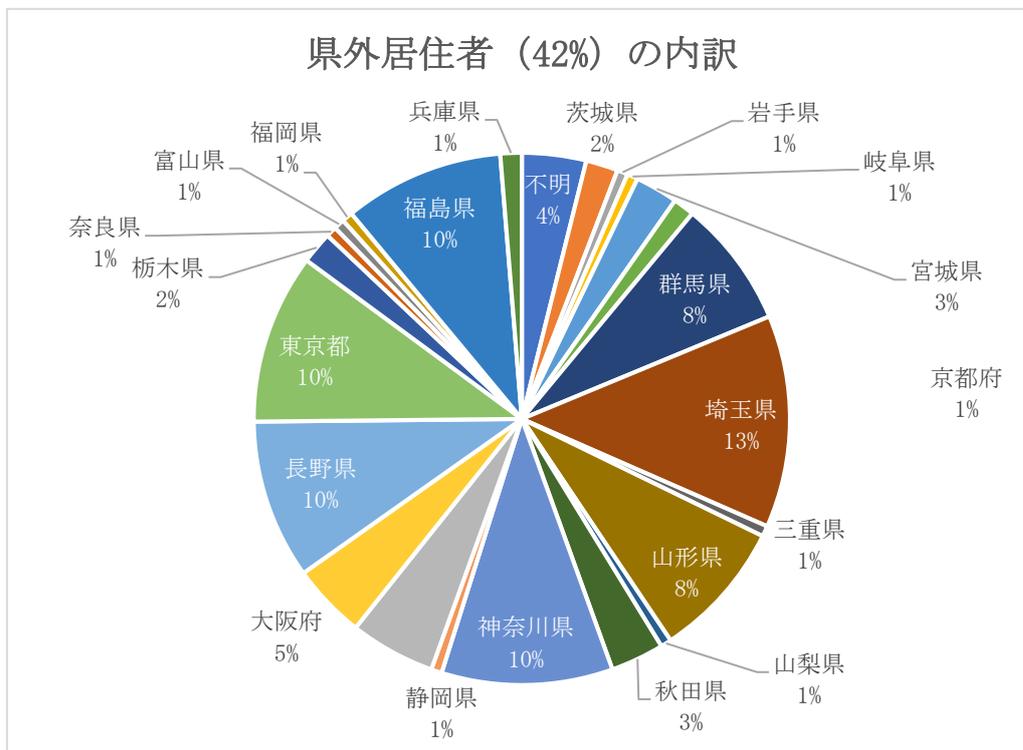
(5)居住地



宿泊者における県内居住者の割合は約6割、県外居住者は残り約4割である。

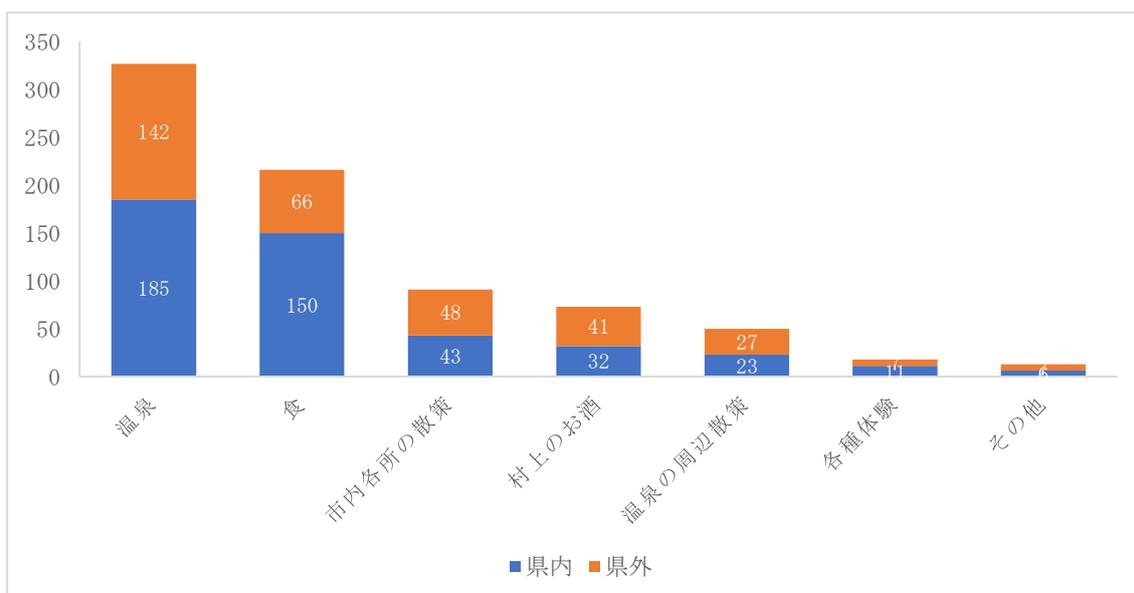


県内居住者のうち約半数が新潟市居住者で、長岡市や村上市の居住者が続く。



県外居住者のうち約半数が関東地方で、福島・長野・山形県居住者が続く。

(6) 瀬波温泉宿泊や村上市内観光で楽しみにしていること (有効回答による分析)

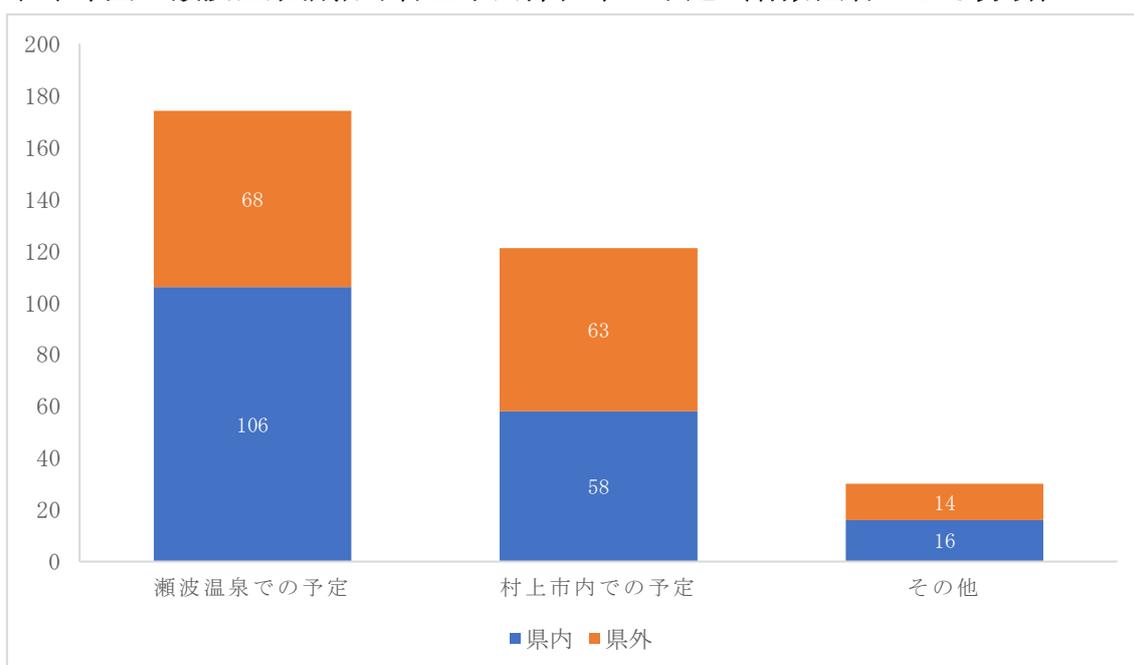


温泉そのものや村上の食のほか、村上市内や温泉周辺の散策を楽しみにしている宿泊客が多い

[楽しみにしていることの具体的内容（有効回答による分析）]

温泉	温泉にゆっくり入ること（夕日・日本海の景色） 体のリフレッシュ
食（酒を除く）	塩引鮭、村上牛、鮮魚、村上米、カニ、 はらこめし、温泉卵
市内各所の散策	町屋めぐり（や住民の方とのふれあい・交流） 雛人形さまの祭り イヨボヤ会館 おしゃぎり会館 笹川流れ いちご狩り 恋人の聖地の鐘
村上のお酒	宮尾酒造の季節限定の生原酒（♫張鶴） 大洋盛
温泉の周辺散策	岩船港の鮮魚センター、ゲタを履くこと
各種体験	酒造巡り 塩引鮭作り体験
その他	夕日を眺めること

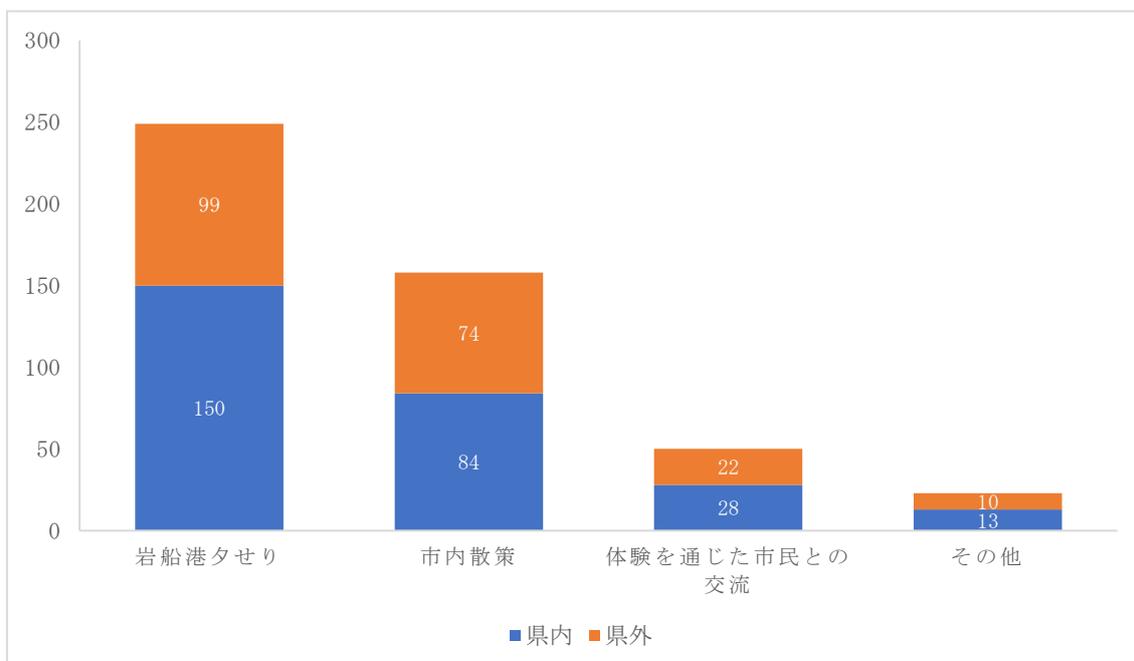
(7) 今回の瀬波温泉宿泊や村上市内滞在中の予定（有効回答による分析）



[瀬波温泉宿泊や村上市内滞在中の予定の具体的内容（有効回答による分析）]

瀬波温泉での予定	温泉にゆっくり入る（夕日・日本海の景色） 温泉街を散策（予定） 温泉だけで1泊する（市内には行かない）
村上市内での予定	町屋めぐり（や住民の方とのふれあい・交流） 雛人形さまの祭り 岩船港の鮮魚センター 酒造巡り イヨボヤ会館 おしゃぎり会館 笹川流れ いちご狩り ラーメン店めぐり
その他	地域ならではの観光 焼きもの（体験） ふ化場（見学） 南国フルーツのジェラートを食す（瀬波温泉） クレープを買いに行く

(8) 次の訪問時に体験したい/出会いたいこと（有効回答による分析）



[次の訪問時に体験したい/出会いたいことの具体的内容]

(有効回答による分析)

全般的な要望	ホテルなどでツアーを計画して連れて行って くれば参加したい
食	(村上の) 美味しいものめぐり シャケを満喫したい
見学/見物	お祭り見学 酒蔵見学 屏風鑑賞
体験	鮭の放流/鮭に関する体験 村上茶摘み体験 キスなどの魚釣り体験 地引網体験 クルージングやカモメとのふれあい体験 夏場の海水浴
その他	フラダンス大会をまた開催してほしい

5. 旧香藝の郷の利活用に関する方向性に関して

(1) 本件調査によるあるべき姿

上記の意見集約を踏まえると、「旧香藝の郷」の利活用に関しては、域外からの観光客・訪問客と域内の住民の双方が利活用できる「交流の場」、「情報発信の場」を提供する、以下のような機能を有する複合施設が望ましいと考えられる。

導き出した本施設の利活用コンセプト案を踏まえ、具体的にどのような施設が望ましいか考えていく。

まず域外からの観光客や訪問客の方々にとっては、村上市と瀬波温泉を結ぶ公共交通や自家用車の発着基地としての機能、すなわち域内外のゲートウェイ（基地）になる事が望ましい。

次に域内の住民の方々にとっては、本施設が気軽に立ち寄ることができる、市内における新たな交流・憩い・学びの場所となっていくことが必要になる。

すなわち、観光客や訪問客の方々には村上市の“おもてなし”が感じられると共に、観光や情報の要所として認知・情報拡散される施設であり、同時に域内の住民の方々にとっても満足できる、交流の拠点となる施設であることが望ましい。

本施設のコセプトをスローガンとして表現すると、以下の通りとなる。

**村上の食・観光・地域の顔を継続的に創造し、
地域内外交流を促進する拠点**

道の駅の機能を有する複合施設

調査結果を基にしたコセプトを考慮すると、本施設は交流を促進する場であり市民の憩いの場でもある。この場所は村上市のゲートウェイとしての機能を持たせるため、市街や域外から来る多くの訪問客に満足感や利便性、そして地域そのものの特性を表現し、またこの場所を訪れたいと思わせる誘引要素を想起させる場所としてコセプトを組み立てることが重要である。

村上市は景観・歴史・食・温泉の点で非常に優れた場所であり、村上市の全体がブランドになっている。ただし現在のところ賑わいが足りないのは、その地域資源の使い方や表現の仕方が昔から変わらないからである。つまり市全体の観光に関する変革がまだ起きていないからであろう。これらの前提に基づき、本施設のあるべき姿を具体的に提案していく。

1階部分は交流の場として、賑やかな場所を創造すべきフロアである。この場所には地域の食や特産品を販売する場所を作る必要がある。ただし、単なる特産品や食を提供するだけの場では単なる駅の大きな売店と変わらないため注意が必要である。ここの特産品コーナーや食を提供するレストラン（食堂）は地域を表現する語り部の店員だったり、料理人だったり、特産品を開発した人の思いだったり、それを表現する舞台を作る事である。またイベント広場としての場所を作る必要がある。イベント広場は大事な賑わいを表現する場所である。このイベント広場を活用していくときには、1ヶ月～2ヶ月毎に、四季を考えながら舞台として場を設営する事が大事である。また、ソフト機能（運営面の機能）として1階には、将来的にDMO組織の事務所を置くことも提案したい。そして村上観光の商品や語り部、その他外国人の対応などの機能を持たせることも必要である。また1階部分は行政のサービス機能も持たせることも将来的には必要である。（瀬波分室）

2階部分は、知的・趣味の教室などを開催できる場所とする。体験教室として村上市に残る伝統や文化を体験を通して教える場所が必要である。2～

3の体験教室が、域内や域外のお客様の交流を促進させてくれる機能を持つものである。また同時に地域のカルチャーセンターとしての機能を持たせ、趣味や教養教室を組み込み、常に地域の人が目的や趣味を持って交流を促進していく場所を提供する。レンタル教室としての利用も可能にし、域内の方々は勿論、域外の方にも提供するものとする。

また、2階部分にはパブリックスペースとして、自由に休める場所を設けて提供することも必要である。休憩処の中に域内や域外の方々の情報収集スペースや語らいの場所があれば、偶然の心温まる交流や新たな発想が生まれる憩いの場としての機能も持つことができる。

2次交通の問題は多くの地域でも存在する。ここで提案したいのは瀬波温泉の各宿泊施設や市内の施設にはお客様送り迎え用のバスや専用車があるので、これらを活用して、各宿泊施設が持ち回りで村上市内各所と本施設とのシャトルバス運行を行ってはどうだろうか。そして本施設が必ず各所への出発地または各所からの目的地となるようなゲートウェイとしての機能を持たせることを提案する。本施設で村上市の滞在や過ごし方を体感・体験していただくこととか、滞在型観光に関しては、本施設が各所とのゲートウェイであること等を滞在するお客様に提案する。また、半日観光や1日観光に関しても、同様に瀬波温泉の各宿泊施設や村上市内各所のバスや専用車を利用して、交代でシャトルバスを運行する等を考えてはいかがだろうか。

現在村上市内の多くの地域や施設で2次交通に問題があるというところがほとんどである。この問題点を解決する手段として、また村上のイノベーションを起こす仕組みづくりとして瀬波温泉の宿泊施設や村上市内各所の施設が連携して、国内外でも珍しい2次交通の新たな手段を開発した地域になることを提案する。

もちろん専用バスや専用自家用車以外にも、近隣に行くにはレンタサイクルが便利である。電動レンタサイクルを何台か整備し、この発着場所についても本施設とする事も同時に提案したい。

このような利活用イメージが、さまざまな調査結果等に基づいて受託者が提言する、本施設の利活用に関する未来のあるべき姿である。

①住民の皆様が利用できる施設機能

住民の皆さま向けには、住民の皆さまが気軽に立ち寄ったり利活用できる憩い・団らんの場の機能提供が重要である。

<住民の皆さまが利用できる機能の例>

- 伝統芸能・地域のイベントの練習や発表の場所
- 写真展・美術・書道などの展示室

- カルチャーセンターとしての教室
- 図書館や来訪者の団らん場所としての場



②情報の発信拠点としての施設機能

域外からの訪問客や観光客向けには、情報発信の場や村上市内の観光の要所としての窓口機能も重要である。(今後はインバウンド対応も必要)

〈情報発信・観光の要所機能の例〉

- 村上市の観光情報や市の情報が取得できる窓口
- ちらし、パンフレット、市内観光マップを提供できる常設スタンド
- 村上市を巡る着地型観光のプログラム発着基地
(着地型観光プログラムの説明・発売場所としての機能)
- 村上市内の食の提供 (村上市の食材を使ったレストランの設置)



③住民と域外訪問客や観光客の活気が溢れる交流機能

本施設が起点となり、活気溢れる利活用を実現するためには、住民と域外からの訪問客が自然に交流できる機能がもっとも重要である。

〈活気が溢れる交流機能の例〉

- 地域の工芸の体験場所や語り部教室
- 交流ができる手作りイベントが可能な場所
→「夏祭りをイメージできる温泉街の賑わいの創出イベント等」
- 村上市の特産品や食を提供できる“村上市”が味わえる場所



本施設は、ハード面の設備（建築構造の整備、いわゆるハコモノ）を中心に变えていくのではなく、住民の皆さまの知恵を絞ったソフトな部分（運営手法そのものや、運営に必要な設備の修繕・整備）を中心的な考え方に据え、新しい拠点の場として、この施設の賑わいを考えていく必要があると考える。

（２）整備手法に関する提案

平成33年度施設の第一段階完成を目指し整備を進めていくことが必要である。

平成31年度は、市民からの意見を聴取し整備案を策定、平成32年度から設計、平成33年度に工事着手の上、年度内の第一段階完成を目指す。

その後、施設の利用状況や老朽化の度合いを踏まえた上で、更なる施設の利便性、施設の魅力を高めるための整備を順次行います。

なお、第一段階完成までの期間に於いても、市民への開放を行い、物販や美術展示など地域の活性化へ向けて利用を促すことが望ましい。

毎年度、PDCAサイクルを回しながら施設の利活用、運営も含めて検証しなければならない。

〔第1段階〕

本施設の利活用に最低限必要な範囲の整備

なお、今後の利活用の手法に柔軟に対応できるよう、動力や弱電などの電気容量の事前想定と確保も整備の想定に入れておく必要がある。

〔第2段階〕

村上市内外からの来訪者へのさらなるおもてなしを支援し、満足度を向上させ、さらなる再来訪を促すために必要な整備

[第3段階]

利活用の実態を踏まえ、中長期にわたって安定的かつ継続的な利活用および利用者の満足度を向上させるために必要な整備

実現に向けてのスケジュール案を以下に示す。

事業内容	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40
市民から 意見聴取	■			第一 段階 完成						第二 段階 完成
整備設計		■						■		
改修工事			■						■	
検証作業	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

※本事業スケジュールは、あくまでも現段階におけるイメージです。

第二段階、第三段階共に行政・運営主体・関係者の意見や整備前後の利活用状況を踏まえながら行う。なお第三段階に於いては第二段階改修後、市民、関係者の声を聴きながら改修時期を検討していくことが必要である。